

教育長 殿

宮城県本吉響高等学校
校長 阿部 一彦

令和7年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

<p>○基礎学力の向上と家庭学習の習慣化 ～自ら学ぶ姿勢の育成を目指して～ ○規範意識の涵養と思いやる心の育成 ～凡事徹底の意識向上を目指して～ ○進路実現に向けた主体的行動の促進 ～第一志望進路決定100%を目指して～ ○自然や人との共生 ～心豊かな人間の育成を目指して～</p>
--

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 研究授業や学び合いをととした授業力向上について	A	学校公開週間を中心に研究授業を設定し、授業検討会では授業者自らのニーズを踏まえた意見交換の機会とすることで、評価の観点の明確化など授業力向上の研修機会となった。	A	A
	② 教育DX推進事業への対応	B	今年度より運用を開始した県内総合学科3校による遠隔授業に対応した。来年度以降、一人一台端末の更なる有効活用を通して基礎学力定着につなげていきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	DXハイスクール事業やタブレット端末の積極的活用など着実な前進が感じられる。従来から行われてきた個に応じた指導と、授業力向上に向けた取り組みの更なる充実を期待する。				
生徒指導	① 生徒が安全・安心に過ごせる学校づくりについて	A	防災分野での評価は生徒・保護者とも県平均を上回った。自然災害等への迅速な対応について校内で確認した。引き続き、命を守る安全教育を徹底していく。	A	A
	② いじめ防止対策の徹底について	B	保護者の肯定的評価は昨年度比5ポイント以上上昇した。職員研修の機会を持ちながら、引き続き、未然防止に努めると共に、保護者理解につながる取り組みを進めていきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	防災に関する取り組みは、訓練や正しい知識に基づいたマニュアル化等について不断の見直しの視点を大切にしてほしい。いじめ問題対策に関しては校内の関係委員会等の定期的開催など更なる向上に努めてほしい。				
進路指導	① 進路実現への意欲向上支援について	A	6月に2年次で新たに全員対象の就業体験を行った。また、これまで年次を限定していた進路行事を全校対象とするなど、生徒の意欲向上に向けた新たな試みを行った。	A	A
	② 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の活用について	B	来年度に向け、3年次での「総合的な探究の時間」のあり方を見直した。個人探究を基本とし、より深化を図っていく。教員の指導力向上を目指し研修機会を設定して充実を図りたい。	B	A
学校関係者評価委員会における意見	就業体験など地元企業との連携事業の重要性を感じる。対象エリアの拡大など引き続き充実を図っていくことを望む。「総合的な探究の時間」について、生徒の課題の自己解決能力につながる更なる進化に期待する。				
地域連携	① 学校情報の積極的な発信について	B	学校通信「ひびき通信」を年間で11号発行し、管内や近隣の中学校3年生全員を対象に配布を行った。学校HPは、引き続き積極的な更新に努めていく。	A	A
	② 特色ある学校づくりについて	A	専門教科を中心に多くの地域連携事業を行い、生徒・保護者とも肯定的評価は昨年度を上回った。教育DX推進事業で培ったスキルを通して、更なる魅力化を図ってほしい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	地域からの理解を得るための連携の取り組みの更なる推進に期待する。これまでの情報発信等により、中学生の本吉響高校の現状についての理解が進み、進学につながっている現状がある。引き続き学校の特色ある取り組みを進めてほしい。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 1人1台端末の効果的活用	iPadを家庭学習でも活用しながら、個別最適化された学びのスタイルを提供できる環境を整備する。
③ 個に応じた指導体制の充実	生徒の実態把握に努め、進路の「ロードマップ」を活用するなど、生徒の多様なニーズに応じた計画性のある指導体制の確立を図る。
④ 校務全般の合理化	「校務改善プロジェクト」のPDCAサイクルを通じて、教職員が協働することで校務の合理化を図ることを通じて、生徒の成長につながる効果的な指導体制の推進を図る。